

香川県-屋島を歩く

テレビ番組「100低山」に触発されて

屋島は、以前から「一度行ってみたい」と思っていた。幼いころに読んだ源平合戦記での古戦場であり、高校時代には「テーブルマウンテンの好例」として学んだ山だったからだ。

折しもテレビの「百低山」で屋島が取り上げられたのを機に「日帰り登山」を思い立った。

見ごたえのあった瀬戸内海

12月6日、未明に出立したが、JR 桜井線でトラブルがあったとかで、予定が少しずつずれ込み、瀬戸大橋を渡る頃には、朝日が海とそこに点在する島々を照らしていた。奈良の二上山の紅葉はまだ見ごろを迎えていなかったが、瀬戸の島々は黄褐色に輝き、空の蒼、海の青との間でくっきりと浮かんでいた。



↑高松港から見る屋島・南半分

屋島全景を見る

高松駅9時50分着。タクシーの運転手さんに頼んで屋島が見える場所で停めてもらい、その全景をカメラに収めようとしたが、ポケットカメラでは半分ずつしか写せなかった。

屋島は周囲が切り立った崖状または急傾斜の斜面となっており、上部は緩やかな起伏はあるものの、ほぼ平坦に見える。南北5km、東西2kmの細長い台地となっている。

この地形は1500万年前の火山活動で溶岩に覆われた平地が、その後隆起し、永い歳月の浸食で硬い部分が取り残されたもので「残丘」と呼ばれている。

北端の傾斜面を登る

「百低山」番組にならって北から南に歩くことにし、10時35分、北嶺登山口から



↑北嶺登山口 登り始める。「イノシシ出没」の看板がある雑木林のなかの急な階段をしばらく登る。やがて道は尾根上に出て、展望が開けるころ「遊鶴亭(ゆうかくてい)」に11:20到着。

ここは急傾斜斜面に突き出す形で設置されている展望台、屋島そのものが島だけだけに海の眺望は抜群。“多島海”と呼ばれる瀬戸内海の美しさを堪能できる。

頂上部の平坦で歩きやすい登山道

ここから道は緩やかな上りになり、やがて2本の舗装路の分岐に出る。舗装路は北嶺山頂部を囲むように南に向かい、その間の自然林のなかを未舗装の登山道が南北に走っている。この平坦な道を木漏れ陽を浴びながら、ゆっくりと歩く。「イノシシ出没」の看板はあるものの誰も通らない気持ちのいい道、メジロが鳴きかわすのを聞き流しているうちに



北嶺(282m)を通り過ぎ、千間堂跡の広場に出た。ここで昼食。

展望台で絶景を楽しむ

休憩後、舗装路の合流点に出、南に進むと西側の崖の上に突き出すように設けられた展望台に出た。ここからは眼下の高松市街地と港、そして西に広がる海が一望のもと。港と島々を結ぶ定期船なのか、白い航跡を曳きながら、ゆっくりと横切っていくのが見える。

ビワ(琵琶)の花とヤブランの実

緩やかな上りの道を南に向かう。路傍にビワの木が目立ち、今、花盛りだ。中国南部原産のこの植物が分厚く光沢のある葉を茂らせ、花をたくさん咲か

←木漏れ陽の中の登山路





↑ヤブランの実

せているのは、この地が温暖だからだろうか。

また道端の岩々の間にヤブランがよく育ち、黒紫色の実を連ねて艶やかに光っている。

東側展望台からは古戦場跡地が

南嶺に向かうのに、東側の道を歩いた。談古嶺近くの展望台からは対岸の島と、間を流れる海峡とが見渡せた。古戦場は対岸の島ともども静かに横たわっていた。

南嶺山頂はひっそりと山の中に

さらに南に進み、マップで見当をつけて雑木林の中の踏み跡をたどると、林の中に「屋島南嶺・292m」の標柱がひっそりと建っていた。

廃線になっていたケーブル

再び通路に出て、さらに南に進む。屋嶋城(やしまのき)跡を見、屋島寺門で出会った高齢者男性にケーブルの駅を訊くと「とっくになくなりましたよ」の返事。自らの事前調査不足にがっかり。案内パンフを広げると、ケーブルの路線が書かれてはいるが「ケーブルカー跡」と明瞭に書かれている。ドジだなあ！

下山路は長かった、長かった

やむなく、表遍路道を下る。道は広く、ところどころに石だたみを織り交ぜながら、ジグザグに下っている。

途中のベンチで休みをとっていると、先ほどの高齢者3人が、「もう少しですから頑張って」と言いながらスイスイと下っていく。

15時丁度にごとでん瀧元駅に着き、JR 高松駅から電車を乗り継いで19時過ぎに帰宅。



↑ピワの花



続・続・二上山に咲く花々

48

チャノキ(茶の木)

ツバキ科ツバキ属

写真は故澤木仁さん



私たちの暮らしに欠かせない飲料水・お茶。世界中で飲まれ、薬としても使われています。

日本には古くに持ち込まれ、平安末期から活躍した僧・栄西が中国から持ち帰ったものが栽培されるようになったとのこと。

江戸末期から明治にかけて、盛んに輸出され、現在でも輸出の重点品目とされています。

二上山では、各所でみかけますが、おそらく山中に多く在ったといわれる僧房で栽培されていたものが野生化したのではないのでしょうか。

花期は晩秋。10月~12月。写真のように丸くて白い花を下向きに咲かせます。